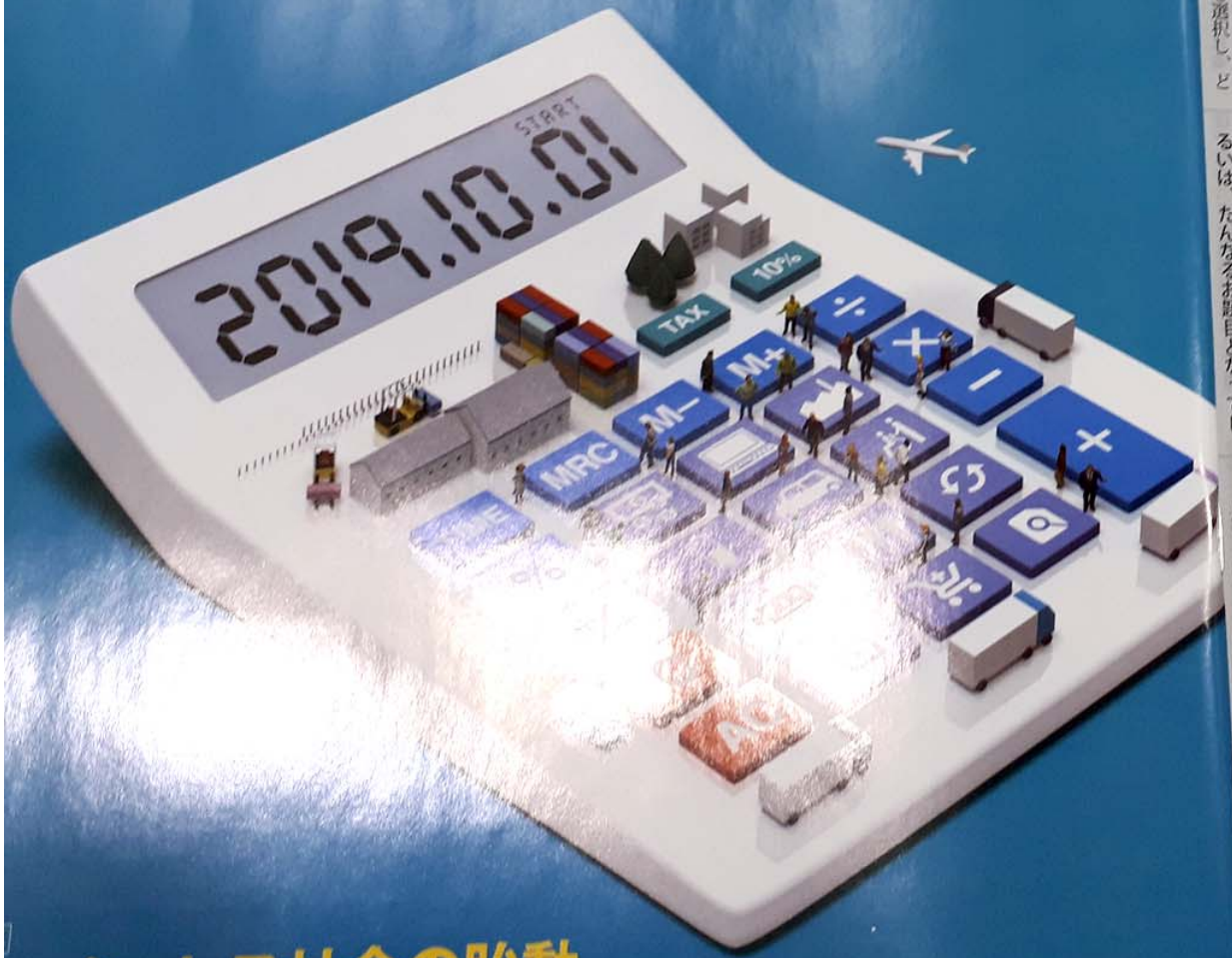
年商50億円を目指す企業の情報誌 The Strategic Manager

戦略経営者

2
2019
February
No.388

特集

2019年度税制改正
徹底解説



ッシュレス社会の胎動

○ホワイトインタビュー

会社のルーツを探り経営理念を再構築する

・ファミリーヒストリー記録社　吉田富美子代表

経営理念を有効に機能させることは思いのほか難しい。ちまたを見回すと、理念が「お題目」と化しているケースのなんと多いことか。吉田富美子氏は、自社のルーツを探ることで、そのような状況を打開できると主張する。

―会社の歴史を振り返ることで経営理念を再構築することの有効性を訴えておられます。

吉田　当社（ファミリーヒストリー記録社）は、個人や企業の歴史を調査し、そのルーツを明らかにする事業を展開していますが、みなさん、ご自分の存在のよって立つところ、つまり「軸」を探しているという印象を持っていました。そうこうする後方、企業のルーツ調査が、その会社の経営理念の抽出・検証を可能にするのではとの思いに至ったのです。

―なぜ経営理念に着目を？

吉田　経営理念は概ね「企業の使命（ミッション）」「目指す姿（ビジョン）」「行動指針（カルチャー）」の三つの要素からなると言われています（図表1）。ミッションについては、創業者がどんな思いでその事業を始めたのかを探ることでにじみ出てくるだろうし、ビジョンやカルチャーは、歴代の経営者が何を選択し、どのように記入しながら、経営理念について考えてみてはいかがでしょうか。何らかの気づきが得られるかもしれません。

理念をお題目にしない

―なぜ経営理念が必要だとお考えですか。

吉田　たとえば、ミッションは企業イメージを明確化し、取引先や顧客との信頼関係をつくるために、ビジョンは（代替わりしたとしても）一貫性のある経営判断を行うために、カルチャーは会社のアイデンティティーを従業員が理解し、それを行動に昇華するために必要だと考えます。

―経営理念自体がなかったり、あるいは、たんなるお題目となってしまっている主な理由は、経営者や従業員の「実感」がそこにのっかっていないところにあると思います。

当社が依頼を受けた会社の例で見ていきましょう。

長らく地元に根付いて診療を行

Profile
よしだ・ふみこ
1962年生まれ。大学卒業後、大手食品メーカーで23年間、研究開発スタッフとして勤務。2012年、「一企業の中だけでなく多くの方に喜ばれる仕事がしたい」と一念発起し、家系図、ルーツ、創業一族史、企業史などの調査・記録を請け負うファミリーヒストリー記録社を立ち上げる。
https://familyhistoryrecord.jp/